

「高津川」「鮎」への関心の広がり・深まり

鮎について調べ学習をしていた4年生と交流。保育園児に伝えることで改めて調べてわかったことや、もっと知りたいことも発見。

稚鮎の放流（4月）

小・中学生や地域の方と一緒に稚鮎を放流 大きくなあれ！

4年生との交流（6月）



小さな鮎が元気よく川に泳いでいく様子を見守る子ども達。石の隙間にはまった鮎を見つけると通り道をつくりはじめる。



鮎はコケを食べる・スイカの匂いがするなど鮎についていろいろ教えてもらった保育園の子ども達

日々の川遊び（7～9月）

稚鮎の放流体験、4年生の教えてくれたことが結びつき、川での探索・探求が広がる。



見守りをしてくれる地域のおじいちゃんや友だちとひたすら鮎探し



この石はぬるぬるしないから鮎がコケを食べたのかも！



鮎を捕まえるためにコケのついた石と石を挟んで仕掛けづくり



友だちと協力してゴリを捕まえた！



園で飼いたい！



翌日川へ水汲みに



毎日じっくりゴリの観察

高津川鮎体験交流（9月）

（地区内年長・西益田小4年・横田中3年・益田養護小学部・地域）

多様な世代で高津川・鮎の体験を繰り返し経験することでふるさとを想う心を育てる。



6月の交流を生かして4年生が考えた鮎クイズにこたえる園児と中学生



中学生にサポートしてもらいながらの鮎の串さし体験



コケのついた石をゴリにあげたい！

西益田幼小交流（西益田小学校・梅賀山保育園・横田保育園・若葉保育園・認定こども園神田保育園）

☆交流活動を始める前に、まずは“西益田地区のめざす子どもの姿”の共有から。「まなびに向かう力」ってどんな力？などの目線合わせを話し合いの中で確認。

西益田地区スローガン：子どもも大人も「まちづくりの主体者」になろう！
にっこり しなやか まなびにむかう力 じぶんをすきになる力 だれかとつながる力



交流①「紙コップであそぼう」テーマ：出会う
夢中になれる活動が子ども同士の自然なつながりへ

☆4回の活動は同じグループで実施。毎回テーマを設定。



☆振り返りはできるだけ早いうちに！今年の基本当日実施！



活動の振り返りは子ども達の声・姿から

交流②「高津川であそぼう」テーマ：出会う
友だちの遊びへの関心、自分の見つけた発見の伝え合い



園児のやりたいこと 小学生のやりたいこと
それぞれウェブで子ども達の声を持ち寄り共有



☆各園、小学校で事前事後の活動を共有。いいな！と思ったら大人も挑戦！

交流③「秋みつけ交流」テーマ：伝える
それぞれのやりたい、作りたい“秋のハロウィンまつり”

“あき”からイメージすることを出し合い、大人が決める活動ではなく、子ども達のやりたい秋の活動へ



同じグループで活動した小学生から園児ひとり一人へのお手紙。1年間、何度も関わったからこそ嬉しいお手紙。「さみしい」の声も。

交流④「学校体験」テーマ：伝える
年長児からの“小学校のふしぎ？”を一緒に体験



園児は保護者に、家庭で振り返りを依頼。子ども達にとっては、自分の経験を言葉にする機会に。保護者にとっても、活動を知る機会や我が子の小学校生活をイメージし、安心できる機会に。



☆…活動に連続性を持たせるためのポイント